

2011年度 修士論文

外国人選手の移籍に関する研究  
—日、中プロバスケットボールに着目して—

A Study On The International Transfer Of The  
Foreign Players  
—With Special Reference To The Professional  
Basketball League Between Japan And China—

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5010A055-3

田 珊

研究指導教員： 木村 和彦 教授

## 目 次

第一章 緒言-----	P. 1
第一節 スポーツのグローバル化とプロ選手の国際移籍	
第一項 スポーツのグローバル化	
第二項 プロスポーツ選手の国際移籍	
第二節 中国におけるバスケットボールの概況	
第一項 中国におけるバスケットボールの現状	
第二項 中国プロバスケットボールについて	
第三項 CBA から海外への移籍の状況	
第三節 日本におけるバスケットボールの概況	
第一項 日本におけるプロバスケットボールリーグの現状	
第二項 bj リーグ、JBL における外国人選手の現状について	
第四節 研究目的	
第二章 先行研究-----	P. 9
第一節 選手移籍の理由に関する研究	
第二節 選手の国際移籍要因に関する研究	
第三章 研究方法-----	P. 10
第一節 仮説モデル	
第二節 研究の方法	
第一項 ドキュメント分析	
第二項 半構造的インタビュー調査	
1. インタビュー調査対象選手	
2. 日本のプロバスケットボールリーグの関係者	
第三項 質問紙調査	
1. 調査時間および場所	
2. 調査対象	
3. 調査対象の選定理由	
4. 質問紙調査の質問項目の設定	

第一節 ドキュメント分析および考察

第一項 CBAに関わる規則のドキュメント分析および考察

1. CBA プロバスケットボール選手の登録
2. CBA プロバスケットボール選手の移籍プログラム

第二項 bjリーグ、JBLの規程のドキュメント分析および考察

1. bjリーグ選手の登録
2. JBL選手の登録

第二節 インタビュー調査および考察

第一項 海外でプレーをした理由

第二項 中国選手が海外移籍の阻害要因

第三項 中国から、プロバスケットボール選手として日本のbjリーグ、JBLに移籍した中国人がいない原因

第四項 移籍先（日本側）が中国人プロバスケットボール選手の移籍についての見方

第三節 質問紙調査および考察

第一項 海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手

第二項 bjリーグ、JBLに移籍する希望がある選手

第三項 bjリーグ、JBLに移籍する希望がない選手

第四項 海外のプロバスケットボールリーグに移籍する希望がない選手

第一節 まとめ

第二節 日中間の国際移籍を含めた人材交流の活性化に向けて

## 第一章 緒言

### 第一節 スポーツのグローバル化とプロ選手の国際移籍

#### 第一項 スポーツのグローバル化

グローバル化とは、一般的には国境を越えるヒト、モノ、カネ、情報や技術の動きの拡大である(尾崎、2006)。21世紀を迎えた現在、スポーツのグローバル化も国境を越え、あるいは境界の消滅に向っているように思える。例えば、サッカーのワールドカップが世界中のどこでやっても、まるで時間、空間の境などはないかのように、リアルタイムで競技場の場面が映し出されることができる。しかし、境がなくなるというのは、電波、情報だけではない。人も世界中に移動している。スポーツの場合、プロスポーツ選手が世界各地のクラブを絶え間なく移籍している。

#### 第二項 プロスポーツ選手の国際移籍

スポーツ社会学の領域において、グローバル化の進展に伴う人の移動が、年々その規模を増大させていることが指摘されている。スポーツという文化事象もグローバル化の中、商品として拡大を遂げている(石原、2010)。一方、こうしたスポーツ界のグローバル化によるスポーツ選手の国際移籍が国際的にも議論されるようになった(Maguire、1999)。

「中国バスケットボール選手の国際移籍についての暫定的管理方法(中国籃球協会運動員涉外转会管理暫行方法)」によると、「国際移籍」とは、選手が移籍元チームを脱退し、海外の移籍先チームに所属変更することをいう。

激しい国際的な競争の中、利益を拡大し、成功をおさめるために、各クラブチームは国籍を問わず、自分のチームを強化できる選手を探している(Orhan Karaca、2008)。

同様に、バスケットボールのプロ化が進展しているとともに、世界中の各国々の間で、技術や戦術のコミュニケーションが盛んになってきているだけでなく、プロバスケットボール選手自体のコミュニケーション、特にプロバスケットボール選手の国際移籍もよく見られるようになってきている。

アメリカのプロバスケットボールリーグ——NBAはその手本と言えるだろう。周知のとおり、NBAが世界中からプロバスケットボールエリートを引き付けている。スティーブ・ナッシュ(カナダ)、トニー・パーカー(フランス)、エマニュエル・ジノビリ(アルゼンチン)、ダーク・ノビツキー(ドイツ)などのような外国人選手が自分の優れた技術を通じて、世界中のNBAファンを魅了し、自らの価値をも人々の前で証明してきた。また、そ

のような外国人選手の移籍が NBA の知名度を世界中に広げ、同時に、NBA の海外市場における事業も切り開いた（王、2006）。このように、プロバスケットボール選手の国際移籍が盛んになってきていることがわかる。

## 第二節 中国におけるバスケットボールの概況

### 第一項 中国におけるバスケットボールの現状

バスケットボールは中国において最も人気があるスポーツの一つである。1895 年、バスケットボールが初めてアメリカから中国に伝えられた。2012 年現在、中国におけるバスケットボールは 117 年の歴史を経ている（中国バスケットボール協会公式サイトより）。

バスケットボール中国代表（以下中国代表チームという）は、中国国家体育总局バスケットボール管理センターによって編成されるバスケットボールのナショナルチームである。歴史からみると、中国代表チームの最高成績は表 1 の通りである。

表 1. 中国代表チームの最高成績（FIBA 公式サイト情報を元に作成）

大会名	最高成績	獲得回数	獲得年
オリンピック	8 位	3 回	1996, 2004, 2008
世界選手権	8 位	1 回	1994
アジア選手権	優勝	15 回	1975, 1977, 1979, 1981, 1983, 1987, 1989, 1991, 1993, 1995, 1999, 2001, 2003, 2005, 2011

表 1 に示したように、中国代表チームがオリンピックと世界選手権での最高成績は第 8 位で、アジア選手権での最高成績は第 1 位（15 回優勝）である。

また、2011 年アジア選手権の後、中国は 219.7 ポイントで FIBA ランキングの第 10 位に位置する。日本は 23.8 ポイントで第 34 位である。2011 年アジア選手権の後の FIBA ランキングは、表 2 の通りである。

表 2. FIBA Ranking (2011)

Rank	Country	IOC	Current Point
1	USA	USA	852.0
2	Spain	ESP	730.0
3	Argentina	ARG	673.0
4	Greece	GRE	488.0
5	Lithuania	LTU	426.0
6	Turkey	TUR	302.0
7	Italy	ITA	272.0
8	Serbia	SRB	232.0
9	Australia	AUS	224.0
10	China	CHN	219.7
11	Russia	RUS	213.0
12	France	FRA	195.0
13	Brazil	BRA	184.0
14	Germany	GER	182.0
15	Angola	ANG	178.0
...	...	...	...
30	Mexico	MEX	26.4
31	Korea	KOR	26.1
32	Tunisia	TUN	25.8
33	F. R. Y of Macedonia	MKD	25.0
34	Japan	JPN	23.8
35	Qatar	QAT	22.4

(www.fiba.com より)

表 1 と表 2 からみれば、アジアの中では、中国バスケットボールの実力はトップに位置すると言えるであろう。

## 第二項 中国プロバスケットボールについて

現在、中国におけるプロバスケットボールリーグは、CBA (Chinese Basketball Association)、WCBA (Women Chinese Basketball Association)、NBL (National Basketball League) の三つが存在する。

CBA は中国男子プロバスケットボールリーグの略称で、1995 年に成立され、8 チームで開幕した。CBA は中国で規模が最大のトップレベルのプロバスケットボールリーグである。

中国バスケットボール協会は、毎年のバスケットボールの国際試合の有無と開催時期によって、新たなシーズンのスケジュールを決めるため、CBA の開催時期が年々異なる。2011-2012 シーズンは、北と南の 2 つのカンファレンスの全 17 チームで、11 月の下旬か

ら翌年 2 月の中旬までレギュラーシーズン 32 試合が行われる。1 チームは週 3 回の試合を行っている。レギュラーシーズンのランキングで上位 8 位に位置するチームが CBA プレーオフに進出する。また、CBA は王治郅 (Wang Zhizhi)、姚明 (Yao Ming)、易建聯 (Yi Jianlian) から中国人 NBA バスケットボール選手を輩出したリーグでもある。

2004 年には CBA の二部リーグが分離・独立したナショナル・バスケットボール・リーグ (NBL) が発足した。NBL は CBA よりレベルが低いプロリーグである。A 組と B 組があり、2011-2012 シーズン、10 のチームが存在している。

WCBA は中国女子プロバスケットボールリーグの略省であるが、今回の研究対象とはしなかった。

### 第三項 CBA から海外への移籍の状況

1978 年、鄧小平 (Deng Xiaoping) が「改革・開放」という政策を打ち出してから、90 年代の中期まで、グローバル化という概念は政治的意味が強く、敏感な問題であり、中国の学者は、この言葉を使用することを避けていた (Yu, 2009)。1998 年、江沢民元主席が経済開放の加速と国際経済のグローバル化の動きを推進した。そこで、中国では、「グローバル化」という概念が次第にオープンに論議されるようになった (Tian, 2005)。

中国人バスケットボールスター姚明 (Yao Ming) は「グローバル化のシンボル」(Larmer, 2005)、あるいは「中国のアイコン」(G. Xu, 2008) と呼ばれる。また、2011-2012 シーズンまで、中国プロバスケットボール選手の CBA から海外への移籍先は、主に NBA に集中している。CBA が成立してから、姚明 (Yao Ming) だけではなく、表 3 に記載されているように、多くの選手が NBA と関わりを持ってきた。

表 3. CBA の選手の NBA との関わり

王 治郅 (Wang Zhizhi)	1999 年、NBA ドラフトでダラス・マーベリックスに指名された。しかし彼はすぐに NBA 入りすることを中国から認められず、長い交渉の末に、ドラフトされてから 2 年後にようやくマーベリックス入りを果たした。彼は中国からの最初の NBA 選手である。
胡 衛東 (Hu Weidong)	2000 年 3 月、オーランド・マジックは契約を結ぶ意向を示した。胡がけがのため、結局 NBA への移籍は実現しなかった。
巴 特爾 (Bateer)	2002 年 2 月、ゴールデンステート・ウォリアーズに入った。その後、サンアントニオ・スパーズに移籍し、2002-2003 シーズンの NBA ファイナルでの勝利を得た。
姚 明 (Yao Ming)	2002 年の NBA ドラフト 1 巡目 1 位でヒューストン・ロケッツに指名された。2010 年までは 7 年連続のオールスターチーム入りした。2011 年 7 月引退。
薛 玉洋 (Xue Yuyang)	2003 年 6 月、NBA ドラフトでダラス・マーベリックスに指名されたが、その後、デンバー・ナゲッツに交渉権が移された。しかし、トレードされたが、結局デンバー・ナゲッツとは契約できなかった。
劉 煒 (Liu Wei)	2004 年 10 月、サクラメント・キングスのトレーニングキャンプに参加した。しかし、最終的にサクラメント・キングスには選ばれなかった。
易 建聯 (Yi Jianlian)	2007 年 6 月、NBA ドラフトでミルウォーキー・バックスから指名を受けた。8 月にバックスと契約した。2012 年、ダラス・マーベリックスに移籍した。
孫 悦 (Sun Yue)	2007 年 6 月、NBA ドラフトでロサンゼルス・レイカーズに指名された。2008-2009 シーズンの NBA ファイナルでの勝利を得た。その後、ニューヨーク・ニックスに移籍した。しかし、一ヶ月後ニックスに解雇された。
易 立 (Yi Li)	2008 年 7 月、ロサンゼルス・レイカーズのトレーニングキャンプに参加し、pre-season game にも参加したが、最終的にレイカーズには選ばれなかった。
陳 松濤 (Chen Songtao)	2008 年 7 月、ニューヨーク・ニックスのトレーニングキャンプに参加した。しかし、結局、ニックスには選ばれなかった。

(中国プロバスケットボール協会の公式サイト情報を元に作成)

CBA が成立してから、全部で 5 人のプロバスケットボール選手が CBA から NBA に移籍した。また、2011 - 2012 シーズン現在、易建聯 (Yi Jianlian) が現役 NBA 選手として活躍している。

彼らの移籍が中国のバスケットボールの強化に積極的な影響を与えた。自らのバスケットボール技術を高めることができるだけでなく、海外のプロバスケットボールリーグの先進的なトレーニング方法やクラブチームの管理方法も学ぶことができる。さらに、彼らの移籍は、CBA がこれまでより一層発展することによって、良い経験となっている (李、2006)。

しかし、上述したことが示しているように、2011 - 2012 シーズンまで、中国人プロバスケットボール選手が CBA から NBA 以外の海外プロバスケットボールリーグに移籍したという事例は管見ながら認められない。

### 第三節 日本におけるバスケットボールの概況

#### 第一項 日本におけるプロバスケットボールリーグの現状

日本のバスケットボールを統括する最も大規模な組織として、財団法人日本バスケットボール協会 (JBA) が存在する。

日本におけるプロバスケットボールリーグは、JBL (Japan Basketball League)、WJBL (Women's Japan Basketball League Organization)、bjリーグが存在する。JBL、WJBL は協会傘下の日本バスケットボールのトップリーグとして、日本リーグという名称で 1967 年に発足し、企業主体の部活動で実業団スポーツとして誕生した。一方、bjリーグは、JBL から分裂してできた JBA 管轄外の独立リーグとして、2005 年に地域密着を掲げ発足したプロリーグである (安藤、2011)。

#### 第二項 bj リーグ、JBL における外国人選手の現状について

現在、日本の bj リーグ、JBL に在籍している外国人選手は主にアメリカ人選手に集中している状況であることがわかる (正確な情報が得られないので、WJBL についての分析は除外した)。

2011-2012 シーズンに、bj リーグにおける外国人選手の現状は表 4 の通りである。しかし、表 4 のデータは大分ヒートデビルズ以外のものである (大分ヒートデビルズは外国人選手の出身地を表示していない)。

表 4. bj リーグにおける外国人選手の現状 (bj リーグの公式サイトを元に作成した)

出身地	アメリカ	カメルーン	セネガル	ガイアナ	ベルギー	コートジボワール	パナマ	トリニダード・トバゴ	セントヴィンセント	ナイジリヤ	イギリス	韓国
人数	67	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
割合	83.75%	2.50%	2.50%	1.25%	1.25%	1.25%	1.25%	1.25%	1.25%	1.25%	1.25%	1.25%

現在、bj リーグ（大分ヒートデビルズを除く）では、合計 80 人の外国選手が在籍している。表 4 が示した通り、bj リーグでは 83.8%の外国選手がアメリカの出身である。ほかの国から出身した外国選手の割合はただ 16.2%だけである。

2008-2009 シーズンに、孫明明 (Sun Mingming) が浜松・東三河フェニックスに移籍した。しかし、彼はその前に、メキシコのプロバスケットボールリーグで 1 シーズンのプレーをした。その後、アメリカで bj リーグのドラフトキャンプに参加した結果、浜松・東三河フェニックスに指名を受けた。彼は CBA から、直接に bj リーグに移籍したわけではなかった。

また、2011-2012 シーズンに、JBL における外国人選手の現状は表 5 の通りである。

表 5. JBL における外国人選手の現状 (JBL の公式サイトを元に作成した)

出身地	アメリカ	中国	セネガル	ドイツ	スウェーデン	韓国	ジャマイカ
人数	15	2	2	1	1	1	1
割合	65.20%	8.70%	8.70%	4.35%	4.35%	4.35%	4.35%

2011-2012 シーズン、JBL では、合計 23 人の外国選手が在籍している。表 5 の通り、65.2%の外国選手がアメリカの出身である。他の国の出身外国選手の割合は 34.8%に

留まっている。

JBL では、2 人の中国出身の選手が在籍しているが、彼らの経歴は表 6 のようになった。

表 6. JBL における 2 人の中国人選手の経歴（JBL の公式サイトを元に作成した）

名 前	経 歴
宋 燕忻	中国北京の出身。1992 年来日。北陸高校、大東文化大学卒。
青島 心	中国青島の出身。青島市第 44 中学校卒業後、沼津商業高校に留学。その後、近畿大学を経て、2005 年、パナソニックに入社。バスケットボールを始めたきっかけは留学生として、日本に来たこと（高校 1 年生）。2010 年に日本国籍を取得した。

彼らは中国のプロバスケットボールリーグでプレーをした経験がなく、高校から来日し、日本で大学を卒業してから、日本のプロバスケットボールチームに参加している。

以上、bj リーグ、JBL 両方から見ると、プロ選手として、中国から日本のプロバスケットボールに移籍した中国人選手は一人もいない状況である。

#### 第四節 研究目的

本研究の目的は、以下の 2 つである。

研究目的 1 :

外国人選手の移籍に影響を与える要因を体系的に把握し、移籍活動を説明するモデルを明らかにする。また、中国プロバスケットボール選手の移籍パターンを示す。

研究目的 2 :

中国から、プロバスケットボール選手として日本の bj リーグ、JBL に移籍した中国人がいない原因を検討する。

## 第二章 先行研究

### 第一節 選手移籍の理由に関する研究

外国人選手は移籍する際、様々な理由をもっている。Maguire (1996) はスポーツ労働移民と呼び、その動機から①移動先にスポーツを伝道する「開拓者 (Pioneers)」、②金銭目的の「傭兵 (Mercenaries)」、③移籍先に移住する「定着者 (Settlers)」、④スポーツの技能を携えて国境を渡る「遊牧民的コスモポリタン (Nomadic Cosmopolitans)」、⑤母国への帰属意識を確認する「帰還者 (Returnees)」の5つに分類した。

また、石原 (2010) は外国人選手が野球不毛の地イスラエルプロ野球リーグ (IBL) への移籍に関わる理由を分析し、IBL の選手を①育成の対象である「プロスペクト」型、②育成のための人員としての途上国出身の「野球労働者」型、③自己実現のために先進国から移動した「バケーション」型、④「自分探し」型の4つに分類した。

国籍を変更し、日本に移籍した19人の外国人選手へのインタビューに基づいて、中川 (2004) は以下の7つの理由を挙げている：①スポーツ選手として成功したい、純粋に大会に出たい、②コーチやトレーニングなどの環境や設備、③チャンスの偏在、④金銭的理由、⑤結婚や家族に関係する理由、⑥国家の誘発、⑦クラブチームの誘発。

### 第二節 選手の国際移籍要因に関する研究

高橋 (2004) は、日本人Jリーグ選手の国際移籍要因として3点を挙げた。第1に、心理的な要因。Horne と Bleakley (2002) を引用し、日本人Jリーグ選手がJリーグで得ていた年収より低い金額で国際移籍をする理由を、自分の能力を試すことであると説明している。また、選手が「夢」を叶えるために海外に移籍すると指摘している。第2に、技術・適応能力的な要因。クラブの期待する技術を見せるには、移籍先チームの同僚、マネジメント、考え方、トレーニング方法などに慣れる必要がある。また、選手は技術以外に、海外での日常生活に適応する能力が求められる。第3に、社会・制度的な要因を指摘している。一般的移民は政治的、経済的な理由があるが、サッカーの移籍の場合は政治的な理由の重要性はわずかな場合であるとしている。また、Lanfranchi と Taylor (2001) を引用し、彼らは歴史的な視点から、エージェントの発達が国際移籍に影響を与えたことを指摘している。

王 (2006) は外国人選手がCBAにもたらす影響に関わる研究において、選手の年齢、年収、自分の技能から、CBAに移籍した外国人選手の特徴を分析した。

### 第三章 研究方法

#### 第一節 仮説モデル

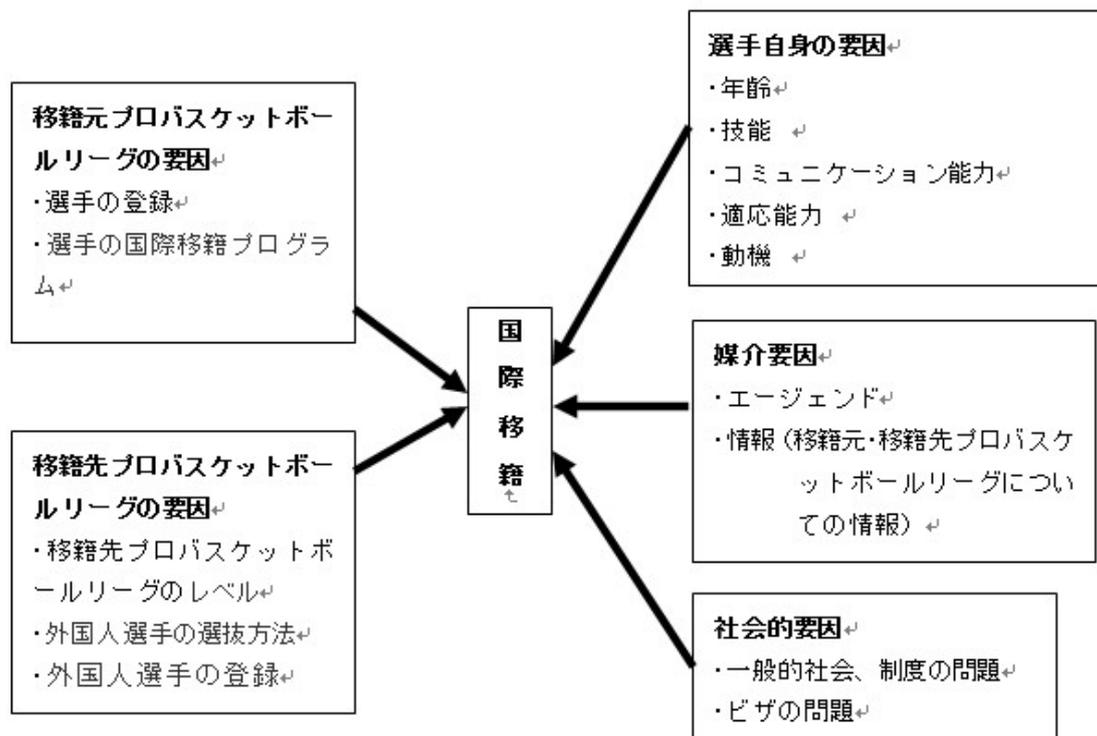


図1. 外国人選手の移籍に影響を与える要因の仮説モデル

先行研究を踏まえ、図1は外国人選手の移籍に影響を与える要因の仮説モデルを提示する。この仮説モデルにおいて、以下の5つの要因が仮説として設定された。

##### ①移籍元プロバスケットボールリーグ要因

移籍元プロバスケットボールリーグの客観的な規則から着目し、国際移籍に影響を与える要因を設定した。具体的には、選手の登録、選手の国際移籍プログラムと考えられた。

##### ②移籍先プロバスケットボールリーグ要因

移籍先プロバスケットボールリーグ要因が移籍先プロバスケットボールリーグのレベル、外国人選手の選抜方法、外国人選手の登録と考えられた。

##### ③選手自身の要因

選手自身の要因が選手の年齢、バスケットボールの技能、外国語（コミュニケーション）能力、適応能力、移籍の動機、5つの方面から考えられた。

##### ④媒介要因

媒介要因がエージェントの現状、移籍元・移籍先プロバスケットボールリーグについて

ての情報から考えられた。

#### ⑤社会的要因

社会的要因が一般的社会、制度の問題とビザの問題から考えられた。

### 第二節 研究の方法

#### 第一項 ドキュメント分析

本研究では、CBA、bjリーグ、JBLに関する規則、また、規則に関する文献を収集し、中国のプロバスケットボール選手が日本への移籍を阻害する要因を分析する。あるいは、中国から、プロバスケットボール選手として日本のbjリーグ、JBLに移籍した中国人がいない原因を検討する。

#### 第二項 半構造的インタビュー調査

##### 1. インタビュー調査対象選手：

###### ①孫 明明 (Sun Mingming)

年齢：28 身長：236cm ポジション：C

経歴：

1983年、中国黒龍江省で生まれた。14歳の時、バスケットボールを始めた。

2000年：黒龍江青年チームに加入した。

2002年－2005年：黒龍江大慶男子バスケットボールチームの一員として、当時のCBAの下部リーグでプレーをした。

2006年3月：USBL (The United States Basketball League) の Dodge City Legend に加入した。

2007年1月：ABA (American Basketball Association) の Maryland Nighthawks に加入した。

2007年6月：メキシコのプロバスケットボールリーグ (Liga Nacional de Baloncesto Profesional) の Fuerza Regia に移籍した。

2008年9月：日本bjリーグの浜松・東三河フェニックスに移籍した。

2009年11月－2012年：CBAの北京金隅に所属している。

###### ②尚 平 (Shang Ping)

年齢：27 身長：208cm ポジション：C/F

経歴：

1984年、中国黒龍江省で生まれた。9歳の時、黒龍江省ハルビン市のバスケットボール学校に入った。

1997年：首都体育学院競技体育学校に入った。

1997年－2000年：中国国家青年男子バスケットボールチームに入った。

2000年：北京奥神青年チームで1年間練習とプレーをした。

2002年：ニュージーランドの Avondale College に入校。高校生として、1年間を過ごした。その一年間に、 Avondale College を代表し、ニュージーランドの高校バスケットリーグでプレーをした。

2003年：アメリカへの visa をもらって、アメリカへ渡った。

2004年：Boston の Winchendon Preparatory School に入学した。

2005年：Illinois Central College に入学。当地の初級学院連盟で活躍した。NCAA の名コーチに注目された。

2006年9月－2009年：NCAA のトップレベルの University of Nebraska に転校し、NCAA で活躍した。

2009年11月：CBA の北京金隅に加入した。

2010年11月－2012年：CBA の山西汾酒に所属している。

ここで、孫明明 (Sun Mingming) 選手と尚平 (Shang Ping) 選手をインタビュー対象として選定した理由は二人とも海外でプレーをした経験を有していたからである。

孫明明 (Sun Mingming) 選手へのインタビュー調査が2011年9月10日に行われた。

また、尚平 (Shang Ping) 選手へのインタビュー調査が2011年9月11日に行われた。

インタビュー調査の内容は表7に示した通り。

表7. 調査内容

調 査 内 容
①海外でプレーをした理由
②中国選手が海外のプロバスケットボールリーグへ移籍することの阻害要因
③中国から、プロバスケットボール選手として日本のbjリーグ、JBLに移籍した中国人がいない原因

## 2. 日本のプロバスケットボールリーグの関係者：

2011年10月9日に、JBLの栃木Brexの代表取締役社長、山谷拓志さんに以下の質問をした：

- ①日本プロバスケットボールリーグが外国人選手を選抜する方法。
- ②どのような素質を備える選手を狙うか。
- ③中国から、プロバスケットボール選手として日本のbjリーグ、JBLに移籍した中国人がいない原因。

## 第三項 質問紙調査

### 1. 調査時間および場所

調査は2011年9月9日～9月11日に、中国の河北(He Bei)省秦皇島(Qin Huang Dao)市国家体育総局秦皇島訓練基地で行われた。

### 2. 調査対象

調査対象は吉林九台農商銀行、上海瑪吉斯、浙江稠州銀行である。図2は調査対象の地理的位置を示している。

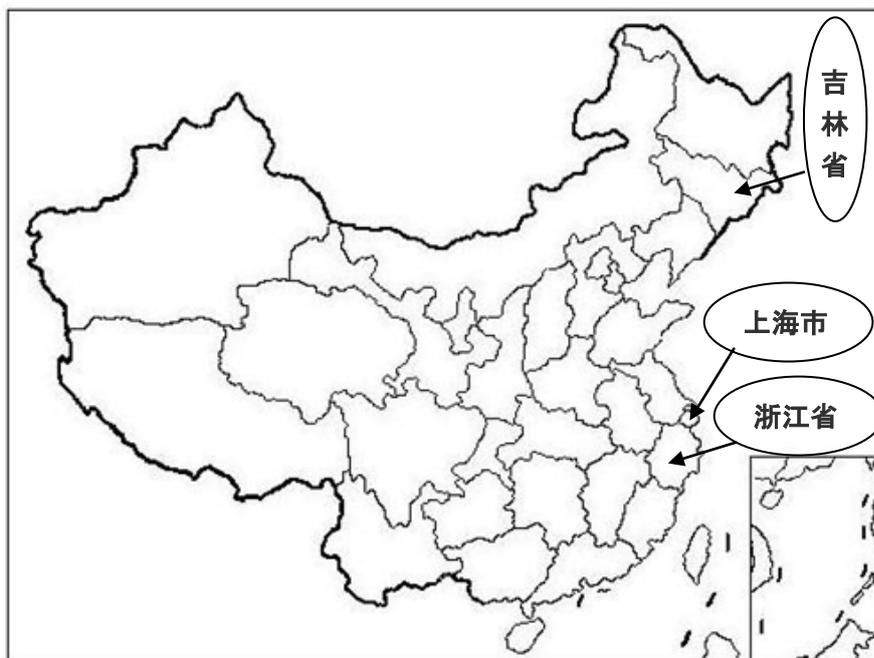


図2. 調査対象の地理的位置

### 3. 調査対象の選定理由

①中国では、地域によって経済、文化、方言、風俗習慣、考え方などが違うので、それぞれの相違は選手の移籍に影響を及ぼすことが考えられる。従って、中国プロバスケットボ

ール選手の移籍パターンを示す場合、地域の影響をできるだけ除くために、本研究には、北の地方チーム一つ、南の地方チーム二つを選択し、調査を行なった。

②CBA の管理者から入手したアドバイスに基づき、CBA では、70%の選手が中国東北三省の出身であることから、調査対象チームの選手が東北三省出身の選手に偏ることを避けるために、本研究では、ほぼ北の地方出身選手を中心とするチーム一つ(吉林九台農商銀行)、ほぼ南の地方出身選手を中心とするチーム一つ(上海瑪吉斯)、両方半分ぐらいチーム一つ(浙江稠州銀行)を選択し、調査を行なった。

#### 4. 質問紙調査の質問項目の設定

詳細は以下の通りである。

##### ①基本的な属性

中国のプロバスケットボール選手の基本的な属性を把握する為に適切な項目として、「性別」、「年齢」、「プロ選手としての年数」、「海外の経験」、「選手の経歴」の5項目を設定した。

##### ②海外に移籍する希望の有無

Q2 において、全ての選手を、「海外に移籍する希望がある」「海外に移籍する希望がない」を分類する。

##### ③選手自身の移籍要因

Q3-Q9 において、海外に移籍する希望がある選手に対して、選手自身の要因を把握するために、「自分の年収を満足するレベル」「バスケットに関する英語の能力」「海外のプロバスケットリーグでプレーをする動機」「プロ選手として海外に移籍する時に、重要な要因」「海外に移籍する阻害」「自分は興味がある海外のプロバスケットリーグ」の6項目を設定した。各質問項目において、「5. そう思う」から「1. そう思わない」まで5段階リッカート尺度によって測定し、それぞれ順に1から5の得点を与えて数量化した。

##### ④bj リーグ、JBL に移籍する希望の有無と理由

Q10 において、海外に移籍する希望がある選手を、「bj リーグ、JBL に移籍する希望がある」「bj リーグ、JBL に移籍する希望がない」に分類する。

Q11 において、bj リーグ、JBL に移籍する希望がある選手に対し、bj リーグ、JBL に移籍する理由を検討するために、「プロ選手として成功したい」「プロ選手として経験を積みたい」「夢を追い、自分の価値を探す」「日本のよいコーチやトレーニングなどの環境や

設備」「日本のチャンスの偏在」「日本に移住したい」「金銭目的」「日本と中国の文化や生活習慣が似ている」「その他」の9項目を設定した。各質問項目において、「5. そう思う」から「1. そう思わない」まで5段階リッカート尺度によって測定し、それぞれ順に1から5の得点を与えて数量化した。

⑤中国から、プロバスケットボール選手として日本のbjリーグ、JBLに移籍した中国人がいない原因

Q12、Q13において、全ての選手に対して、中国から、プロバスケットボール選手として日本のbjリーグ、JBLに移籍した中国人がいない原因を検討する。各質問項目において「5. そう思う」から「1. そう思わない」まで5段階リッカート尺度によって測定し、それぞれ順に1から5の得点を与えて数量化した。

質問紙調査の質問項目の構成は図3の通りである。

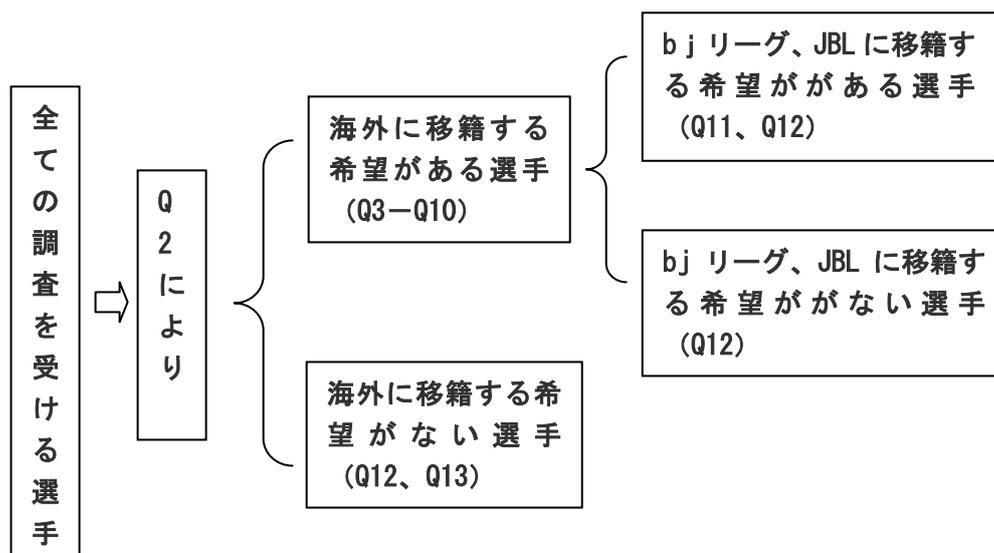


図3. 質問項目の構成

## 第四章 結果および考察

### 第一節 ドキュメント分析および考察

#### 第一項 CBAに関わる規則のドキュメント分析および考察

##### 1. CBA プロバスケットボール選手の登録

「全国バスケットボール選手の登録と移籍方法(全国籃球運動員注冊与交流管理方法実施細則)」によって、以下の条件を満たす選手は、中国バスケットボール協会に登録できる。

- ①選手は登録する時に、年齢が18歳以上である。
- ②クラブチームは選手に対して「優先登録権」を得ている。

「優先登録権」とは、選手とクラブチームの契約期間が満了した場合、選手は契約を続ける意欲がなくても、クラブチームは選手に対する「優先登録権」を持っている。つまり、選手の契約期間が満了しても、自由に解約できない。必ず所属するクラブチームでプレーを続ける必要がある。「優先登録権」の期間は、契約期間により決められる。契約期間が1-3年間の場合、「優先登録権」の期間は1年間であり、契約期間が4-6年間の場合、「優先登録権」の期間は2年間であり、契約期間が7-9年間の場合、「優先登録権」の期間は3年間である。

CBA プロバスケットボール選手の登録に関する規定において、「優先登録権」は選手が海外のプロバスケットボールリーグに移籍することを大きく阻害していると考えられている。「優先登録権」は選手が所属するクラブチームにとって、有利である。選手の契約期間が満了しても、所属するクラブチームはほかのクラブチームより、優先的にその選手と契約することになる。また、孫明明(Sun Mingming)選手と尚平(Shang Ping)選手のインタビューによると、現在、CBAの各クラブチームが青年選手と長い期間の契約を結ぶのが一般的な状況である。「優先登録権」の結果、長期契約をした青年選手は、同一のクラブチームで10年間以上プレーをすることになる。もし、所属するクラブが早めに契約を解除する意向がなければ、選手は他のクラブに移籍することができない。この結果、国際移籍は別として、プロバスケットボール選手として、ほぼ一生において、一つのチームでプレーをすることが一般的になっている。

しかし、なぜCBAの各クラブチームが青年選手と長い期間の契約を結ぶのか。李(2006)は、中国の青年バスケットボール選手はクラブに入る前に、継続して各省(市)のバスケットボール協会の傘下で育成された。彼らのトレーニング、生活、学習などは全て各省(市)

のバスケットボール協会が責任を負っている。しかし、クラブは 18 歳以上の優れた選手だけを管理する。また、選手が引退した後の住居、仕事、医療保険、養老保険などは各省（市）のバスケットボール協会の責任である。そのため、青年選手がリスクを感じ、自分の安定的な未来を考えた結果、契約期間が長くても、契約を続けることになる。

## 2. CBA プロバスケットボール選手の移籍プログラム

### ①CBA プロバスケットボール選手の移籍種類：

「全国バスケットボール選手の登録と移籍方法(全国籃球運動員注册与交流管理方法实施細則)」によって、CBA では、選手の移籍が「国内移籍」、「国内臨時移籍」、「港澳台移籍」（香港、マカオ、台湾）、「国際移籍」4つの種類を含めている。本研究では、「国際移籍」を検討している。

### ②CBA 選手の「国際移籍」：

「中国バスケットボール選手が国際移籍についての暫定的管理方法(中国籃球協會運動員涉外转会管理暫行方法)」によって、「国際移籍」とは、選手が移籍元チームを脱退し、海外の移籍先チームに所属変更することをいう。

「国際移籍」は、「国内選手が海外リーグに移籍」する場合と「海外選手が CBA に移籍」する場合を含めている。本研究では、日本の bj リーグ、JBL では、中国からのプロバスケットボール選手の移籍がない原因を検討するために、CBA 「国内選手が海外リーグに移籍」する場合の規程を分析する。

以下の条件を満たしている選手は、中国バスケットボール協会の許可を得た場合、海外のプロバスケットボールリーグに移籍することができる。

第 1、中国バスケットボール協会に登録され、男子 22 歳（女子 20 歳）を満たしている。

第 2、CBA のクラブとの契約が満了、あるいは、契約が満了しでいなくても、クラブは、早めに契約を解除する意向がある。

第 3、中国代表（U20、U18 チームを除く）として、2 回以上のアジア大会レベル以上の国際試合に参加した経験がある。

第 4、地方の体育局を推薦する選手。

上記の 4 つの条件の全てを同時に満たす選手は、海外への移籍を申請することができる。しかし、現実的に全ての条件を満たす選手はわずかである。そのため、選手が自由で海外へ移籍できない問題を引き起こしていると考えられる。

### ③CBA 選手が国内および海外で得た収入、賞金についての管理方法

「国内および海外で得た収入、賞金についての管理方法（国内外有獎比賽賞金、獎品管理暫行方法）」によって、CBA を除く、選手が国内および海外の興行目的のバスケットボール試合から得た収入の 50%を中国に納付する。その内訳は、「中国 バスケットボール協会の発展ファンドに 30%」、「選手の所属省（市、区）のバスケットボール協会に 10%」、「中国体育総局に 10%」である。

この管理方法によって、NBA は興行目的のバスケットボール試合と規定され、今まで、多くの NBA に移籍した CBA プロバスケットボール選手が年収の 50%を納付した。この管理方法が選手の国際移籍を制限し、大きな阻害要因となっていることがわかる。

## 第二項 bj リーグ、JBL の規程のドキュメント分析および考察

### 1. bj リーグ選手の登録

bj リーグの公式サイトによって、bj リーグ合同トライアウトは、株式会社日本プロバスケットボールリーグが主催する、入団希望者を対象とするトライアウトである。日本国籍、または日本在住の外国籍であり（日本在住でない外国人も参加可能であるが、ドラフト対象にはならない）、16 歳以上でプロ契約希望なら受験することができる。

bj リーグの「選手に関する規定（2010-2011 シーズン）」によって、各チームは bj リーグの合同トライアウトでの選考を通じて選手を評価し、ドラフト会議で指名選手を決定する。合同トライアウトに参加した選手を対象に、全チームがストレートウェーバー制（全ての順位において下位チームから指名する方式）で指名を行なう。bj リーグの公式サイトによって、リーグ発足当初は外国人選手について出場登録・同時出場いずれも自由だったが、2008-2009 シーズンからは日本人選手育成の観点からアジア外選手の同時出場は 3 人、アジア人も含めた外国人は 4 人までとなっている。2010-2011 シーズンより第 2 句ウオーターに限り同時出場がアジア外 2 人、外国人 3 人に減少した。2010-2011 からは同時契約も制限が付き、アジア外は 5 人、アジアは 1 人までとなっている。

bj リーグの合同トライアウトは日本人選手のみならず、外国人選手にも門戸を開放しており、トライアウト受験資格を持っていれば、国籍に無関係なく受験ができる。また、日本国内の合同トライアウトとは別にアメリカで海外トライアウトを実施している。

bj リーグは JBL より同時契約することができる外国人選手の人数が多い。また、国籍に関係なく、外国人選手が合同トライアウトに参加することができる。しかし、bj リーグの海外トライアウトはアメリカで開催するだけで、リーグ自体がアメリカの出身の選手を注目し、制限したと考えられる。その結果、アメリカ以外の外国人プロバスケットボール選手が bj リーグの情報を知るわけがなく、bj リーグに移籍するチャンスもかなり下がっていると考えられる。

## 2. JBL 選手の登録

bj リーグと比べ、各チームがエージェントを中心として、選手を募集している。また、リーグ登録選手は 1 チーム 12 名以上 16 名以内であり、日本人選手への出場機会を確保するという目的もあって、外国人枠を 1 人に制限している。

bj リーグにおいて、日本のバスケットボールを活性化することにより、プロフェッショナルかつエンターテイメントあふれるプレーを魅せるとともに、地域社会におけるスポーツ文化の向上と国際化に貢献することを目的とする。

しかし、JBL において、主に日本バスケットボールの普及・育成・強化と目的として、JBL では、日本人選手への出場機会を確保するため、外国人選手の人数が bj リーグより非常に少なく、中国のプロバスケットボール選手にとって、移籍の機会も少ない原因の一つになっていると考えられる。

## 第二節 インタビュー調査および考察

### 第一項 海外でプレーをした理由

#### 1. 孫 明明 (Sun Mingming) 選手

「子どもから身長がずっと伸びてて、アメリカに訪問したとき、アメリカのプロバスケットボールチームに注目された。その後、アメリカでのプロバスケットボール生活が始まった。また、bj リーグはアメリカでドラフトがあって、参加した結果、浜松・東三河フェニックスと契約を結んだ。」

#### 2. 尚 平 (Shang Ping) 選手

「中国では、もしスポーツ選手が引退したら、大多数の人が生活できないことを認識して、知識を学びたいので、高校のときニュージーランドへ留学した。その後、アメリカの

University of Nebraska に入学して、NCAA に参加した。」

## 第二項 中国選手が海外移籍の阻害要因

### 1. 孫 明明 (Sun Mingming) 選手

①中国バスケットボール協会・省のバスケットボール協会において、選手の移籍を阻害している政策がある。

第四章の第一節／第一項目／1 のところで述べたように、現在、CBA の各クラブチームが青年選手と長い期間の契約を結ぶのが一般的な状況である。「優先登録権」の結果、長期契約をした青年選手は、同一のクラブチームで 10 年間以上プレーをすることになる。もし、所属するクラブが早めに契約を解除する意向がなければ、選手は他のクラブに移籍することができない。

②中国体育制度方面の原因。

各省（市、区）が大量な人的資源や物質的資源をかけ、若い選手を育成したので、かけたものを無駄にしないように人材を他の省（市、区）に渡ることを避けることになっている。

### 2. 尚 平 (Shang Ping) 選手

①中国体育制度方面の原因。

現在、中国体育の現状は「挙国体制」(National Sports System) と「プロスポーツ」が混合している状態である。現在、中国プロバスケットボール選手の育成の流れは、以下図 4 で説明する。

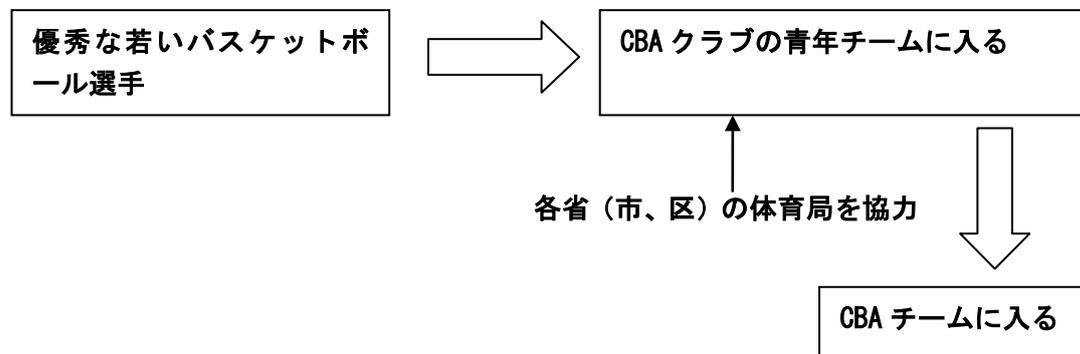


図 4. 中国プロバスケットボール選手の育成の流れ

「挙国体制」の結果、各省（市、区）が大量な人的資源や物質的資源をかけ、若い選手を育成したので、人材が他の省（市、区）に渡ることを避けるために、若い選手が「地方

保護」をされた。現在、第四章の第一節／第一項目／1 のところで述べたように、CBA の各クラブチームが青年選手と長い期間の契約を結ぶのが一般的な状況である。青年選手における自由契約選手が少ない。

「拳国体制」とは、旧ソ連、欧州の国々に由来した。1986 年、スポーツ選手のトレーニングや育成手段として、「拳国体制」が中国体育総局に制定された。「拳国体制」は国家の利益を最高の目標として、非常に重大な事業を実施するために、最大限に全国の物質的資源や精神的資源を支えるという戦略である。(Techeng Wu, Shengher Lin, 2005)

## ②中国バスケットボール協会政策の原因。

第四章の CBA プロバスケットボール選手の移籍プログラムに触れたように、中国バスケットボール協会の海外移籍を管理する規定によって、制限されている。

第 1、中国バスケットボール協会に登録され、男子 22 歳（女子 20 歳）を満たしている。

第 2、CBA のクラブとの契約が満了、あるいは、契約が満了していなくても、クラブは、早めに契約を中止する意欲がある。

第 3、中国代表（U20、U18 チームを除く）として、2 回以上のアジア大会レベル以上の国際試合に参加した経験がある。

第 4、地方の体育局を推薦する選手。

第三項 中国から、プロバスケットボール選手として日本の bj リーグ、JBL に移籍した中国人がいない原因

### 1. 孫 明明 (Sun Mingming) 選手

①中国バスケットボール協会・省のバスケットボール協会において、選手の移籍を阻害している政策がある（第四章参照）。

②CBA のレベルが bj リーグ、JBL より高い。

③コミュニケーションが難しい。浜松・東三河 フェニックスにいったとき、コーチは英語ができないので、同チームの中国籍の選手が通訳した。

④CBA において、トップレベルの選手の年収は 400-500 万元/年（約 4870 万-6089 万円/年）である。しかし、もし日本に移籍すれば、日本のプロバスケットボールリーグのクラブがそのくらいの年収を提供することができない。また、CBA において、出場できない選手の年収が 11-12 万元/年（約 134 万-146 万円/年）である。年収の格差が非常に大きい、出場できない選手は青年選手に集中し、各クラブチームと長い期間の契約

を結んでいるので、移籍しようとしても、移籍するわけにはいかない。

- ⑤日本のプロバスケットボール選手が企業で仕事があるから、引退しても、生活を保障できる。しかし、中国の若い選手が知識不足で、引退したら、ほとんど生活を保障できない。そのため、若い選手が安定で前に進むために、年俵が少なくても、CBA でプレーをする。

## 2. 尚 平 (Shang Ping) 選手

- ①中国バスケットボール協会・省のバスケットボール協会において、選手の移籍を阻害している政策がある（第四章参照）。
- ②bj リーグ、JBL ついて、あまり知らない。

### 第四項 移籍先（日本側）が中国人プロバスケットボール選手の移籍についての見方

JBL のリンク栃木 Brex の代表取締役社長山谷拓志氏へのインタビュー結果、次のような結果を得ることができた。

日本では、bj リーグが毎年ドラフトを行なっている。Brex (JBL) の場合、エージェントを通じて、選手に関する情報を得ている。

「外国人選手の能力について、Brex の場合では、まず、選手が日本でプレーをした経験があるかどうかを考える。日本のトレーニング方法、日本の生活を慣れるかどうか。相手の考え方がチームに合わせるかどうかも重要であると報告されている。」と指摘した。

また現在、bj リーグの中でも、JBL の中でも、プロ選手としての中国人選手が一人もない理由を聞くと、山谷氏は、2つの問題点を指摘し「中国プロバスケット選手の情報が入らない。また、言葉、通訳の問題があると報告されている。」と答えた。

山谷氏のインタビューを通じて、現在の日本のプロバスケットボールリーグの経営者の視点から、中国プロバスケットボール選手の情報が入らないこと、また言葉、通訳の問題が、中国プロバスケットボール選手が日本に移籍することを阻害していることが分かる。

また、もう1つの特筆すべき点はエージェントに関してである。

中国バスケットボール協会の公式サイトによると、中国で、エージェントは A 型と B 型が存在している。A 型とは、選手の国際移籍と国内移籍両方が担当できるエージェントである。B 型とは、選手の国内移籍のみが担当できるエージェントである。現在、中国では A 型と B 型を含め、合計 23 人のバスケットボールエージェントが中国バスケットボー

ル協会に登録されている。

2011-2012 シーズンに、CBA は合計 17 チームが存在し、各チームは 16 人の登録選手で計算すれば、2011-2012 シーズンなら、272 人の選手がいる。しかし、李（2006）は、現在、CBA に登録したエージェントはわずか 23 人で、そのうち A 型エージェントは 17 人のみであり、ニーズに十分にこたえることができない状態であると指摘している。更に、有能な選手が海外に輸出や外国人選手の輸入は長期的で、安定的なエージェントマーケットを求めていると指摘している。このことは、国際的市場で活躍する中国のエージェントが必要であることを示していると考えられる。

### 第三節 質問紙調査および考察

調査対象：吉林九台農商銀行、上海瑪吉斯、浙江稠州銀行

配布：30 部、回収：30 部、回収率：100%。

有効回答数：22 部、有効回答率：73.3%。

分析の結果：海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある：11 人

海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がない：11 人

#### 第一項 海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手

	答えカテゴリー					平均値
	満足している	やや満足である	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	
年収の満足度	0 (0)	1 (9.1)	4 (36.4)	4 (36.4)	2 (18.2)	2.36

単位：名 (%)

表 8 からみると、海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手において、54.6%の選手が自分の年収に満足していない。

	答えカテゴリー					平均値
	知っている	やや知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	知らない	
英語専門用語の熟知度	0 (0)	4 (36.4)	6 (54.5)	0 (0)	1 (9.1)	3.18

単位：名 (%)

表 9 が示した通り、海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手において、バスケットについての英語専門用語の熟知度が低い。

	答えカテゴリー					平均値
	そう思う	ややそう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わな い	
1.プロ選手として成功したい	9 (81.8)	1 (9.1)	1 (9.1)	0 (0)	0 (0)	4.73
2.プロ選手として経験を積みたい	6 (54.5)	2 (18.2)	3 (27.3)	0 (0)	0 (0)	4.27
3.夢を追い、自分の価値を探す	7 (63.6)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (0)	0 (0)	4.45
4.海外のよいコーチやトレーニングなどの環境や設備	6 (54.5)	3 (27.3)	2 (18.2)	0 (0)	0 (0)	4.36
5.海外のチャンスの偏在	5 (45.5)	2 (18.2)	4 (36.4)	0 (0)	0 (0)	4.09
6.移籍先に移住したい	2 (18.2)	3 (27.3)	2 (18.2)	1 (9.1)	3 (27.3)	3.00
7.金銭目的	8 (72.7)	1 (9.1)	1 (9.1)	1 (9.1)	0 (0)	4.45

単位: 名 (%)

表 10 からみると、海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手において、海外のプロバスケットボールリーグに移籍する理由の平均値の上位 3 項目は①プロ選手として成功したい (4.73)、②夢を追い、自分の価値を探す (4.45)、金銭目的 (4.45) ③海外のよいコーチやトレーニングなどの環境や設備 (4.36) となった。

	答えカテゴリー					平均値
	そう思う	ややそう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わな い	
1.年齢	9 (81.8)	1 (9.1)	1 (9.1)	0 (0)	0 (0)	3.36
2.技能	6 (54.5)	2 (18.2)	3 (27.3)	0 (0)	0 (0)	4.00
3.外国語(コミュニケーション)能力	7 (63.6)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (0)	0 (0)	3.36

単位: 名 (%)

表 11 が示した通り、年齢と外国語 (コミュニケーション能力) より、選手自身の技能の程度が海外への移籍に影響を与えるほうが大きい。

	答えカテゴリー					平均値
	そう思う	ややそう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わな い	
1.移籍元と移籍先リーグの規則に制約される	5 (45.5)	3 (27.3)	2 (18.2)	1 (9.1)	0 (0)	4.09
2.エージェントが欠ける	5 (45.5)	2 (18.2)	3 (27.3)	0 (0)	1 (9.1)	3.91
3.移籍先リーグの情報が手に入らない	3 (27.3)	5 (45.5)	1 (9.1)	1 (9.1)	1 (9.1)	3.73
4.言葉(コミュニケーション)の問題	2 (18.2)	4 (36.4)	4 (36.4)	0 (0)	1 (9.1)	3.55
5.海外の日常生活に適應する能力	1 (9.1)	2 (18.2)	5 (45.5)	3 (27.3)	0 (0)	3.09
6.一般的な社会、制度の問題	1 (9.1)	2 (18.2)	7 (63.6)	1 (9.1)	0 (0)	3.27
7.ビザの問題	2 (18.2)	0 (0)	4 (36.4)	1 (9.1)	4 (36.4)	2.55
8.移籍先リーグのレベル	2 (18.2)	2 (18.2)	4 (36.4)	2 (18.2)	1 (9.1)	3.18

単位: 名 (%)

表 12 からみると、海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手において、中国人選手が海外のプロバスケットボールリーグに移籍することの阻害要因の平均値の上位 3 項目は①移籍元と移籍先リーグの規則に制約される (4.09)、②エージェントが欠ける (3.91)、

③移籍先リーグの情報が手に入れない (3.73) となった。

	答えカテゴリー					平均値
	興味がある	やや興味がある	どちらとも言えない	あまり興味がない	興味がない	
1.NBA(アメリカ)	5 (45.5)	3 (27.3)	1 (9.1)	0 (0)	2 (18.2)	3.82
2.LegaBasket A(イタリア)	4 (36.4)	2 (18.2)	4 (36.4)	1 (9.1)	0 (0)	3.82
3.A1Ethniki(ギリシャ)	3 (27.3)	5 (45.5)	3 (27.3)	0 (0)	0 (0)	4.00
4.TBL(トルコ)	3 (27.3)	3 (27.3)	4 (36.4)	1 (9.1)	0 (0)	3.73
5.ACB(スペイン)	6 (54.5)	4 (36.4)	1 (9.1)	0 (0)	0 (0)	4.45
6.bjリーグ/JBL(日本)	3 (27.3)	3 (27.3)	1 (9.1)	2 (18.2)	2 (18.2)	3.27
7.KBL(韓国)	3 (27.3)	3 (27.3)	1 (9.1)	3 (27.3)	1 (9.1)	3.36

単位: 名 (%)

表13が示しているように、中国人プロバスケットボール選手が海外のプロバスケットボールリーグの選択希望の平均値の上位3項目は①ACB(スペイン)(4.45)、②A1Ethniki(ギリシャ)(4.00)、③LegaBasket A(イタリア)(3.82)、NBA(アメリカ)(3.82)となった。日本のbjリーグ、JBL(3.27)は第7位に位置していることがわかった。

	答えカテゴリー					平均値
	知っている	少し知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	知らない	
1. bjリーグについて	1 (9.1)	0 (0)	0 (0)	2 (18.2)	8 (72.7)	1.55
2. JBLについて	1 (9.1)	0 (0)	0 (0)	2 (18.2)	8 (72.7)	1.55

単位: 名 (%)

また、海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手において、bjリーグ、JBLについての認知度が低い。

海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手において、bjリーグ、JBLに移籍する希望がある選手は4人(36.4%)である。bjリーグ、JBLに移籍する希望がない選手は7人(63.6%)である。

## 第二項 bjリーグ、JBLに移籍する希望がある選手

bjリーグ、JBLに移籍する希望がある理由の平均値の上位3項目は①金銭目的(4.75)、②日本のチャンスの偏在(4.50)、③プロ選手として成功したい(4.25)、プロ選手として経験を積みたい(4.25)、夢を追い、自分の価値を探す(4.25)となった。

また、bjリーグ、JBLに移籍する希望がある選手において、プロ選手として中国から移籍した選手がいない理由の平均値の上位3項目は①エージェントが欠ける(4.00)、②CBA、bjリーグ、JBLの規則に制約される(3.75)、bjリーグ、JBLの情報が手に入らない(3.75)、

③言葉（コミュニケーション）の問題（3.25）となった。

### 第三項 bjリーグ、JBLに移籍する希望がない選手

**表15. 現在、bjリーグ、JBLにおいてプロ選手として中国から移籍した選手がいない理由（n=7）**

	答えカテゴリー					平均値
	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	
1.CBAとbjリーグ、JBLの規則に制約される	5 (71.4)	1 (14.3)	0 (0)	0 (0)	1 (14.3)	4.29
2.エージェントが欠ける	2 (28.6)	2 (28.6)	2 (28.6)	2 (28.6)	1 (14.3)	3.57
3.bjリーグ、JBLの情報が手に入らない	3 (43.9)	2 (28.6)	0 (0)	0 (0)	2 (28.6)	3.75
4.言葉(コミュニケーション)の問題	3 (43.9)	1 (14.3)	2 (28.6)	1 (14.3)	0 (0)	3.86
5.日本での日常生活に適応する能力	2 (28.6)	1 (14.3)	3 (43.9)	1 (14.3)	0 (0)	3.57
6.一般的社会、制度の問題	2 (28.6)	0 (0)	4 (57.1)	1 (14.3)	0 (0)	3.43
7.ビザの問題	1 (14.3)	0 (0)	2 (28.6)	3 (43.9)	1 (14.3)	2.57
8.bjリーグ、JBLのレベルが低い	2 (28.6)	1 (14.3)	3 (43.9)	1 (14.3)	0 (0)	3.57

単位: 名 (%)

表 15 が示した通り、bjリーグ、JBLに移籍する希望がない選手に対して、現在、bjリーグ、JBLにおいてプロ選手として中国から移籍した選手がいない理由の平均値の上位3項目は①CBAとbjリーグ、JBLの規則に制約される（4.29）、②言葉（コミュニケーション）の問題（3.86）、③エージェントが欠ける（3.57）、bjリーグ、JBLの情報が手に入らない（3.57）、日本での日常生活に適応する能力（3.57）、bjリーグ、JBLのレベルが低い（3.57）となった。

### 第四項 海外のプロバスケットボールリーグに移籍する希望がない選手

**表16. bjリーグ、JBLの認知度（n=11）**

	答えカテゴリー					平均値
	知っている	少し知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	知らない	
1. bjリーグについて	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (9.1)	10 (90.9)	1.09
2. JBLについて	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (9.1)	10 (90.9)	1.09

単位: 名 (%)

表 16 が示した通り、海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手（平均値は 1.55）より、bjリーグ、JBLについての認知度が低い。

**表17. 現在、bjリーグ、JBLにおいてプロ選手として中国から移籍した選手がいない理由 (n=11)**

	答えカテゴリー					平均値
	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	
1.CBAとbjリーグ、JBLの規則に制約される	3 (27.3)	1 (9.1)	4 (36.4)	1 (9.1)	2 (18.2)	3.18
2.エージェントが欠ける	5 (45.5)	2 (18.2)	3 (27.3)	1 (9.1)	0 (0)	4.00
3.bjリーグ、JBLの情報が手に入らない	4 (36.4)	3 (27.3)	2 (18.2)	1 (9.1)	1 (9.1)	3.73
4.言葉(コミュニケーション)の問題	3 (27.3)	3 (27.3)	4 (36.4)	0 (0)	1 (9.1)	3.64
5.日本での日常生活に適應する能力	1 (9.1)	2 (18.2)	4 (36.4)	3 (27.3)	1 (9.1)	2.91
6.一般的社会、制度の問題	1 (9.1)	1 (9.1)	6 (54.5)	2 (18.2)	1 (9.1)	2.91
7.ビザの問題	1 (9.1)	0 (0)	3 (27.3)	5 (45.5)	2 (18.2)	2.36
8.bjリーグ、JBLのレベルが低い	1 (9.1)	1 (9.1)	4 (36.4)	4 (36.4)	1 (9.1)	2.73

単位: 名 (%)

表 17 が示した通り、海外のプロバスケットボールリーグに移籍する希望がない選手において、現在、bj リーグ、JBL においてプロ選手として中国から移籍した選手がいない理由の平均値の上位 3 項目は①エージェントが欠ける (4.00)、② bj リーグ、JBL の情報が手に入らない (3.73)、③言葉 (コミュニケーション) の問題 (3.64) となった。

**表18. 現在、海外のプロバスケットボールリーグに移籍する希望がない理由 (n=11)**

	答えカテゴリー					平均値
	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	
1.自分の現状に満足している	2 (18.2)	1 (9.1)	5 (45.5)	3 (27.3)	0 (0)	3.18
2.自分の年齢が不適切	2 (18.2)	3 (27.3)	5 (45.5)	1 (9.1)	0 (0)	3.55
3.自分の技能は足りない	1 (9.1)	3 (27.3)	5 (45.5)	2 (18.2)	0 (0)	3.27
4.海外の日常生活に適應する能力が低い	2 (18.2)	5 (45.5)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (0)	2.45
5.日本での日常生活に適應する能力	0 (0)	1 (9.1)	3 (27.3)	7 (63.6)	0 (0)	2.91
6.移籍元と移籍先リーグの規則に制約される	0 (0)	3 (27.3)	7 (63.6)	1 (9.1)	0 (0)	3.18
7.エージェントが欠ける	1 (9.1)	4 (36.4)	5 (45.5)	1 (9.1)	0 (0)	3.45
8.移籍先リーグの情報が手に入らない	1 (9.1)	6 (54.5)	4 (36.4)	0 (0)	0 (0)	3.73
9.一般的社会、制度の問題	0 (0)	1 (9.1)	7 (63.6)	3 (27.3)	0 (0)	2.82
10.ビザの問題	0 (0)	2 (18.2)	4 (36.4)	2 (18.2)	3 (27.3)	2.45
11.移籍先リーグのレベル	0 (0)	2 (18.2)	7 (63.6)	1 (9.1)	1 (9.1)	2.91

単位: 名 (%)

表 18 が示した通り、海外のプロバスケットボールリーグに移籍する希望がない選手において、海外のプロバスケットボールリーグに移籍する希望がない理由の平均値の上位 3 項目は①移籍先リーグの情報が手に入らない(3.73)、②自分の外国語能力が低い(3.64)、③自分の年齢が不適切 (3.55) となった。

今回の質問紙調査において、海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がある選手の半数以上 (54.6%) が自分の年収に満足していないことを示している。しかし、中国のプロバスケットボール選手は子供からスポーツトレーニングのみ受けるので、学校での成

績がよくない。バスケットボールに関する英語専門用語の熟知度が低いと報告されている。この要因がプロバスケットボール選手の移籍に影響を及ぼすと考えられる。今回のプロバスケットボール選手における海外のプロバスケットボールリーグに移籍を希望する理由は、「プロ選手として成功したい」、「夢を追い」、「自分の価値を探す」、「金銭目的」、「海外のよいコーチやトレーニングなどの環境や設備」、「プロ選手として経験を積みたい」、「海外のチャンスの偏在」の7つの項目が挙げられた。プロバスケットボール選手自身の視点から見ると、年齢と外国語（コミュニケーション能力）より、選手自身の技能の程度が海外への移籍に影響を与える方が大きいことを示している。また、移籍元と移籍先リーグの規則に制約されることは海外への移籍の第1の阻害要因と考えられた。移籍先リーグのレベルは選手の移籍にほれほど大きな影響を与えているとは考えられない。もう1つは、中国人プロバスケットボール選手が身体的パワーや個人的能力を重視する NBA（e. g. NBA の規則によって、zone defense は禁止されている）よりチームワークや戦術を重視するヨーロッパのプロバスケットボールリーグへ移籍する希望が高いことを示している。

中国のプロバスケットボール選手において、海外に移籍する希望がある選手、海外に移籍する希望がない選手ともに、bj リーグ、JBL に対する認知度が低いことがわかった。海外のプロバスケットボールリーグに移籍希望がない選手が、海外のプロリーグのレベルにかかわらず、主な原因は①移籍先リーグの情報が手に入らないこと、②自分の外国語能力が低いこと、③自分の年齢が不適切であると考えていることを示している。

## 第五章 結論

### 第一節 まとめ

本研究では、外国人選手の移籍に影響を与える要因を体系的に把握することによって、国際移籍活動のモデルを解明し、中国プロバスケットボール選手の移籍パターンを示した。また、中国から、プロバスケットボール選手として日本の bj リーグ、JBL に移籍した中国人がいない原因を明らかにした。

質問紙調査により、国際移籍に影響を与える要因が図 5 の通りに示している。

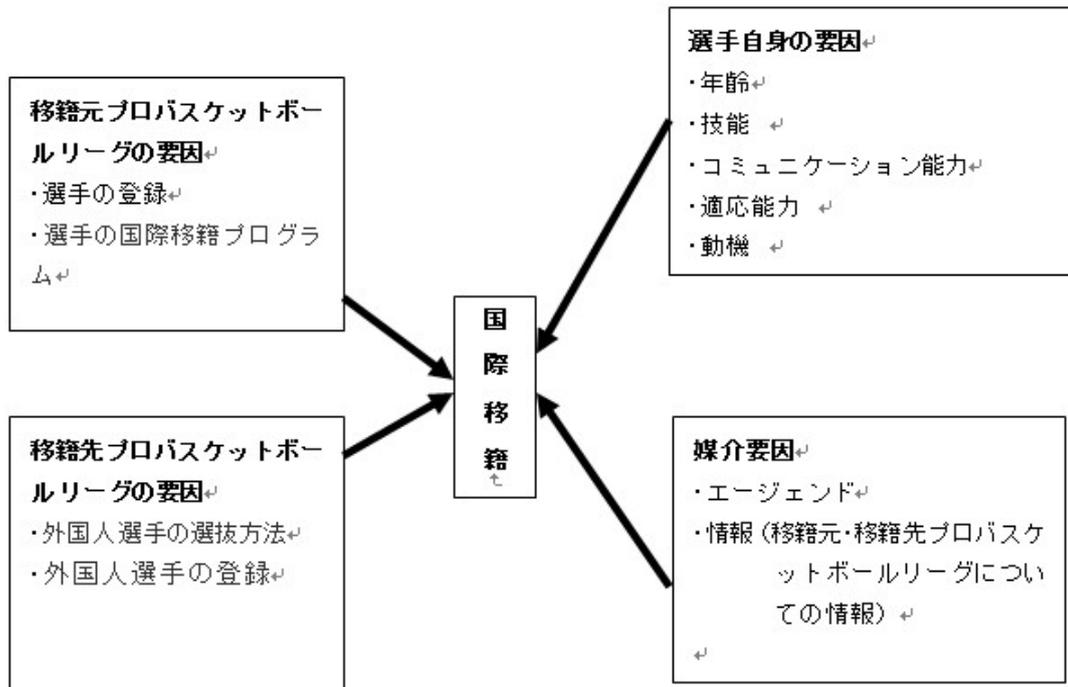


図 5. 国際移籍に影響を与える要因

海外に移籍する希望がある選手と海外に移籍する希望がない選手からみれば、移籍元プロバスケットボールリーグの要因、移籍先プロバスケットボールリーグの要因、選手自身の要因、媒介要因が国際移籍に影響を与えていることが示している。しかし、「移籍先プロバスケットボールリーグのレベル」、「一般的社会、制度の問題」、「ビザの問題」が国際移籍にそれほど大きな影響を与えているとは考えられないので、仮説モデルを修正し、図 5 では削除することにした。

現在、中国から、プロバスケットボール選手として、日本の bj リーグ、JBL に移籍した中国人がいない原因において、主に、第 1、中国バスケットボール協会・省（市、区）のバスケットボール協会において、選手の移籍を阻害している政策がある。中国では、プ

ロバスケットボールリーグ労働組合がないので、中国プロバスケットボール選手の利益が保護されていない。各省も大量な人的資源や物質的資源をかけて、若い選手を育成したので、人材が他の省（市、区）に渡ることを避けるために、若い選手が「地方保護」をされた。また、中国プロバスケットボールリーグのクラブチームは選手に対して、「優先登録権」を得ている。現在、CBAの各クラブチームが若い選手と長い期間の契約を結ぶのが一般的な状況である。「優先登録権」の結果、長期契約をした青年選手は、同一のクラブチームで10年間以上プレーをすることになる。もし、所属するクラブが早めに契約を解除する意向がなければ、選手は他のクラブに移籍することができない。第2、中国プロバスケットリーグとbjリーグ、JBLの交流が少ないので、中国プロバスケットボール選手はbjリーグ、JBLに対して認知度が低い状況である。同様に、bjリーグ、JBLの場合でも、中国プロバスケットボールリーグの状況があまり知らない状況である。第3、bjリーグ自体がアメリカの出身の選手を注目し、制限したと考えられる。その結果、アメリカ以外の外国人プロバスケットボール選手がbjリーグの情報を知るわけがなく、bjリーグに移籍するチャンスもかなり下がっていると考えられる。第4、JBLでは、日本人選手への出場機会を確保するという目的のため、外国人選手の人数がbjリーグより非常に少なく、中国のプロバスケットボール選手にとって、移籍の機会も少ない原因の一つになっていると考えられる。第5、言葉、通訳の問題で、中国人プロバスケットボール選手が日本のプロバスケットボールリーグに移籍することを阻害している。第6、国際的市場で活躍する中国のエージェントの人数が少ないので、現在、日本のプロバスケットボールリーグで、プロ選手としての中国人選手が一人もいない状況になってきた。

## 第二節 日中間の国際移籍を含めた人材交流の活性化に向けて

本研究では、中国から、プロバスケットボール選手として日本のbjリーグ、JBLに移籍した中国人がいない原因を検討した。現在、中国バスケットボール協会がCBAで実施している政策は、中国選手の国際移籍を阻害する一つの重要な原因と考えられる。中国では、各省（市、区）が大量な人的資源や物質的資源をかけ、若い選手を育成したので、かけたものを無駄にしないように、人材が他の省（市、区）に渡ることを避けることになっている。もし、中国のバスケットボール選手がCBAの選手になれば、海外に移籍することが難しくなる。

しかし、JBLにおいて、宋燕忻選手と青島心選手の経験を参考にし、本研究では、日中間の国際移籍を含めた人材交流の活性化に向けて、次の提案で結びたい。

選手が中国プロバスケットボール選手になる前に、留学生として来日し、高校で勉強をしながら、バスケットボールの部活動も続けることができる。その後、高校を卒業し、大学の生活を経て、日本のbjリーグ、JBLに加入することになる。従って、有能な若い選手にとって、海外のプロバスケットボールリーグで、自らの価値と夢を実現することができる。また、中国では、プロバスケットボールの選手が、子供の時から、毎日、バスケットボールのトレーニングを受け、教育の時間が足りない状況である。つまり、一般的な学生より知識が欠けている。これによって、大多数の人が引退してから、社会に入って、普通の生活に適應することが難しい。もし、留学生として来日し、日本の高校あるいは大学で、バスケットボールのトレーニングをしながら、よい教育を受けるようになる。将来、このような移籍パターンが選手の引退した生活にも役立つと考えられる。

## 引用・参考文献

- ・安藤太郎 (2011) 「ストリートボールイベントのプロダクト構造に関する研究—bjリーグ、JBL と比較して—」 早稲田大学スポーツ科学研究科
- ・石原豊一 (2010) 「プロスポーツのグローバル化におけるスポーツ労働移民の変容—野球不毛の地イスラエルに集うプロ野球選手の観察から」 スポーツ社会学研究 18-1
- ・尾崎正峰 (2006) 「越境するスポーツ・グローバリゼーションとローカリティ」 創文記画
- ・王 偉 (2006) 「外国人選手がCBAにもたらす影響に関わる研究」 北京体育大学
- ・高橋義雄 (2004) 「日本人Jリーグ選手の国際移籍の要因に関する研究」 スポーツ産業学研究 Vol.14, No.1, 13~22
- ・中川真美 (2004) 「国籍変更するスポーツ選手とその理由」 富山大学
- ・李 雲成 (2006) 「CBA 職業球員转会現状及発展对策研究」 北京体育大学
- ・Horne, J. with Bleakley, D. (2002) 「Japan in the world of football」 in Horne, J. and Manzenreiter, W. (eds) Japan, Korea and the 2002 World Cup, Routledge, pp. 121-129.
- ・Lanfranchi, P. and Taloy, M. (2001) 「Moving with the Ball: The Migration of Professional Footballers」 Berg.
- ・Larmer (2005) 「The center of the world」 Foreign Policy, 150, 66-74.
- ・Maguire, J. (1996) 「Blade Runners: Canadian Migrants, Ice Hockey, and the Global Sports Process」
- ・Maguire, J. (1999) 「Global Sport」 Polity Press.
- ・Techeng Wu, Shengher Lin (2005) 「Analysis of the Success of the China Table Tennis Team under the National Sports System」 Sport Science Research.

- Tian, Y. C. (2005) 「The Chinese model of modern development」 London: Taylor & Francis.
- Xu, G. (2008) 「Olympic dreams: China and sports 1895-2008」 Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Yu, K. (2009) 「Democracy is a good thing: Essays on politics, society and culture in contemporary China」 Washington, DC: Brookings Institute Press.
- 全国籃球運動員注冊与交流管理方法實施細則 (2008)
- 中国籃球協會運動員涉外轉會管理暫行方法 (2006)
- 国内外有獎比賽賞金、獎品管理暫行方法 (1997)
- 選手に關規定する (bj リーグ、2010-2011 シーズン)
- FIBA 公式ホームページ <http://www.fiba.com/>
- 日本バスケットボール協會公式ホームページ <http://www.japanbasketball.jp/>
- bj リーグ公式ホームページ <http://www.bj-league.com/bj/Top.do>
- JBL 公式ホームページ <http://www.jbl.or.jp/>
- 中国バスケットボール協會公式ホームページ <http://www.cba.gov.cn/>